

大歳交流センターだより

No.100 平成29年7月号

発行 大歳地域交流センター

TEL 922-4035 FAX 922-4036

(行政窓口) TEL 922-2461

人数 13,450 世帯数 6,442

平成29年6月1日現在



6/15 大歳小学校生徒と田植え



第60回大歳地区ソフトボール大会結果報告

6月4日(日) 榎野川運動公園にて開催しましたソフトボール大会の結果を報告します。

【Aブロック】

優勝 今井下
準優勝 中矢原A
3位 下湯田
上矢原A



【Bブロック】

優勝 勝井
準優勝 高井
3位 上湯田上
中矢原B



おまつり企画運営委員会が始動しました!

大歳地区のおまつりを盛り上げようと、地域有志の方がおまつり企画運営委員会を立ち上げました。今年のおまつりから楽しい新イベントの企画や、おまつり全体の運営もします。

また、おまつり企画運営委員会では地域のおまつりを自らの力で盛り上げたいという方を募集しています。興味がある方は大歳地域交流センターまで御連絡ください。



母推さんの子育て応援講座

虫歯予防教室

正しい歯磨きの仕方を教わりませんか?

日時: 7月12日(水)
10時~12時(受付9時30分~)

場所: 大歳地域交流センター

内容: 歯科衛生士さんのお話と実習

対象: 乳幼児とその保護者

持参物: 歯ブラシ、コップ、タオル

定員: 15組(先着順)

担当: 母子保健推進協議会

申込: 大歳地域交流センター

(TEL 922-4035)

※7/3(月)から申込みを受け付け

大歳地区健康相談のお知らせ

「みんなで楽しくリフレッシュ!
~将来の寝たきりを早めに防ごう~」

日時: 7月14日(金)
10時~11時

場所: 大歳地区交流センター

内容: ・足の筋力のバランス力チェック
(ロコモ度テスト)

・手軽に寝たきり予防トレーニング

・健康に関する相談等

※各種健診結果をお持ちの方は、ご持参下さい。

問い合わせ: 山口市保健センター

(TEL 921-2666)



はつらつクラブ 大人の居場所

～7月は歌声喫茶♪～

懐かしい子どもの歌、昭和の歌を楽しく歌いましょう。

日時：7月15日（土）

13時30分～15時30分

内容：☆歌声喫茶

めんこい仔馬、みどりのそよ風、学生時代、旅人よ等

場所：大歳地域交流センター 2階 講堂

参加費：200円

問い合わせ：代表 大隅

(TEL 924-7475)

申込は要りません。どなたでもご参加ください。



大歳野球スポーツ少年団からのお知らせ

大歳野球スポーツ少年団の檜田さんと岩本さんが、8月4日から埼玉県にて開催される全国大会に山口県代表として出場します。二人は市内野球スポーツ少年団に所属する女子選手で構成された「山口 Saikyo ガールズ」の主力メンバーでもあり、NPBガールズトーナメント2017山口県決勝大会でも優勝しました。皆さんの応援をお願いします。また、大歳野球スポーツ少年団では、団員を募集しています。



問い合わせ：代表 上田

(TEL 080-6313-3652)

大歳地区青少年健全育成協議会からのお知らせ

地撮り山口大歳 参加者募集！

大歳地区のまち並みを再発見してみませんか？ そして、SNSで魅力を発信しましょう！

4つのコースを散策して、携帯やスマートフォンでさまざまな風景や史跡を撮影し、#30jidoriをつけてツイッターに写真を投稿します。参加者全員で試写会とコンテストをやりま。優秀作品には豪華賞品を準備していますので、ユーモアのある写真を撮って賞品をゲットしましょう！

日時：7月22日（土）9時30分～16時（予定）※受付9時～

（小雨の場合も開催します。）

集合場所：大歳地域交流センター 2階 講堂

内容：午前中に大歳地区4コースを散策し、写真をツイッターに投稿。昼ごはんを食べて、午後から試写会と優秀作品の表彰式をします。

対象：どなたでも参加できます。

持参物：動きやすい服と靴

飲み物、携帯やスマートフォン（ツイッターで写真投稿ができるもの）

参加費：500円（弁当付） ※乳幼児は無料（弁当なし）

定員：先着20組

申込：大歳地域交流センター（TEL 922-4035）

※7月3日（月）から受付開始

締め切り：7月14日（金）

その他：

小学生以下の方は必ず保護者同伴で参加ください。

日よけ、虫除け、水分補給等熱中症対策をして参加ください。

主催：大歳地区青少年健全育成協議会 後援：大歳自治振興会

運営：Yan 山口アートネットワーク、株式会社アワセルブス



えっ！こんなところに鳥居が！？
（地撮りコース下見風景）

子育てマナビィ 受講生募集!

第2回 おもしろすぎる! ? こどもの本 ～子育ては本におまかせ～

日時：7月22日(土) 10時～12時
 場所：湯田地域交流センター 湯田温泉5丁目5-50
 託児：あり ※無料(要申込)
 持参物：筆記用具
 対象：保護者、興味のある方
 定員：先着30人
 講師：横山 眞佐子 (こどもの広場 代表)
 下関市出身。1979年に全国でも珍しい、
 子どもの本の専門店「こどもの広場」を開店されました。
 申込：山口市社会教育課
 (TEL 934-2865)

参加無料



子育てサークル 太陽クラブからのお知らせ

きいろいひよこさんのおはなし会と スイカ割り

日時：7月28日(金) 10時30分～13時
 (受付10時～)
 場所：大歳地域交流センター 2階 和室
 対象：未就園児とその保護者
 きょうだいの同伴も可。
 持参物：帽子、飲み物、手拭き、
 お弁当を食べる方はお弁当
 申込：代表 山根
 (TEL 080-5207-5059)
 締切：7月21日(金)



チキンチキンごぼう発祥の地

皆さん、「チキンチキンごぼう」という料理を食べたことはありますか? 今では市内の小中学校で人気のメニューになっているチキンチキンごぼうですが、なんとここ大歳から生まれました。この料理は1995年に当時大歳小学校に勤務していた栄養教諭の方が給食にオリジナル料理を採り入れようと各家庭にメニューを募集したときに大歳在住の方から応募された一品です。大歳小学校で人気が出て、市内の小中学校に広まってきました。

市内のコンビニにおにぎりの商品もあるくらい有名になったチキンチキンごぼう、食べたことがない方は今夜の晩御飯の一品にいかがですか?



居酒屋 夢源(湯田温泉)より

【大歳地区7月の行事予定】

1日(土) 危険箇所看板点検(8:00～9:00)
 3日(月) 燃やせないごみの日
 8日(土) おおとし防災の日イベント(10:00～12:00)
 12日(水) 母推さんの子育て応援講座(10:00～12:00)
 13日(木) 金属・小型家電製品の日
 14日(金) ぶっくん来館日(15:20～16:00)
 14日(金) 大歳地区健康相談(10:00～11:00)
 15日(土) 大人の居場所(13:30～15:30)
 19日(水) びん・缶の日
 19日(水) 大腸がん検診(15:00～16:00)

19日(水) 肺がん検診(15:20～16:00)
 21日(金) パソコン相談(10:00～12:00)
 22日(土) 地撮り大歳(9:00～16:00)
 26日(水) 大腸がん検診(9:30～10:20)
 27日(木) 古紙ペットボトル分別収集(大歳①)
 28日(金) ぶっくん来館日(15:20～16:00)
 28日(金) 子育てサロン太陽クラブ(10:00～13:00)
 31日(月) 古紙ペットボトル分別収集(大歳②)

※木曜日はプラ容器包装分別収集

幕末期、大歳地区の牛馬数の変化 1

山口県大島郡出身で民俗学者の宮本常一氏は超人的に全国調査をし、「東の馬と西の牛」というものを著しました。それによると、滋賀県あたりを境に馬と牛の分布は大きく分かれるのです。西日本の中で、中国・近畿地方はほとんどが牛であり、九州・山口、四国は牛馬が混在しており、東日本は、北上山地の北部や佐渡島など数か所を除けば、馬が殆どです。五世紀あたりから始まる日本の牛馬の歴史の中で、この地域差は、江戸時代にはすでに成立していると言われていています。江戸時代の初め、防長での牛馬の数は、牛 37,164 疋に対して馬 9,508 疋で、馬の 4 倍近くが牛です。矢原・朝田・黒川の大歳地区では、牛 179 疋に対して馬 105 疋で、この地域としては、馬の割合が多い所ですが、それでも牛の数の方がはるかに多いのです。それが江戸時代後半の天保 13 年頃の記録によれば、牛 53 疋に対して馬 225 疋となって、馬が牛の 4 倍近くに逆転してしまうのです。確かに馬の数は明治にかけて徐々に多くなっていきますが、このような逆転はありません。では何故大歳地区で、この時期だけ馬の数が多くなったのでしょうか。

山口県は牛を中心とした農耕地帯ですが、馬もかなりの割合で飼われている混在地域です。その割合は明治時代の記録によれば、「牛耕六分，馬耕三分，人耕一分」と言われます。それが大歳地区では、天保 13 年頃の記録によりますと、この割合が逆転するのです。それでは他の周辺地域はどうかと言いますと、大歳を含む山口地域（牛 1,621 疋：馬 1,861 疋）以外では、小郡地域（牛 781 疋：馬 3,324 疋）、防府地域（牛 812 疋：馬 3,554 疋）となり、その逆転現象が見られます。逆に徳地（牛 2,459 疋：馬 468 疋）などほとんどの地域では、牛が多いのです。要は天保期（1831～1845）前後に、この三ヶ所に牛よりも馬を必要とする何らかの理由があったということです。

次回に、その理由について考えたことを述べます。

（大歳史談会、文責：黒田五郎）



牛を使った田耕の風景

画像は「昭和の子どもたち」より転写



馬を使った田耕の風景

画像は「父が残した昭和の記録」より転写

（註） 牛馬の数は現在では一頭、二頭と数えます。これは大量の牛馬を頭数（head-count）で数える米国流の数が一般化したものです。以前は本文が示すように一頭ずつ引き綱で引いて数えたことから「ひき」であり、文字は 1 対あることを示す疋や匹の文字を当てます。対は 2 反を単位とする織物の数え方から由来します。牛馬の場合、後ろから見ると、お尻が二つに割れており、それを 1 対とし、1 疋（匹）と数えたのです。ちなみに疋は二足で一對となる「足」を意味しました。かつて牛馬を疋（匹）で数えていましたが、近代になって小動物一般を「匹」で、大型動物を「頭」で数えるようになったのです。

（参考） 河野通明「農耕と牛馬」（中澤克昭編『人と動物の日本史 2』吉川弘文館 2009 年）